ウィークリー・マーケット・レポート

東京市場ウィークリー・レビュー／2026年11月9日（月）～13日（金）　発行：ていネコの投資ノート

1．今週のサマリー

■ **指数の動き：**日経平均は週末終値 61,142.35 円と前週末比 3,707.58 円高（+6.46%）、TOPIX は 3,941.57（+6.30%）と 5 日続伸しました。前週（3 日休場の 4 営業日）の 5,855.34 円安に対し、今週の上昇幅はその約 6 割にあたります。月・火の 2 日間で 3,000 円超上昇して 6 万円台を回復し、水曜には 6 万 1,000 円台に乗せました。

■ **主な動き：**前週に大きく下げた AI・半導体株が週前半に上昇し、日経平均を押し上げました。12 日はエヌビディアのファン CEO をめぐる報道で値がさ半導体株が急落し日経平均は反落しましたが、TOPIX は同日も上昇し、週を通じて一度も下げませんでした。

■ **業種の特徴：**東証 33 業種は全業種が上昇しました。上位は繊維製品・建設・銀行・化学・卸売、下位は食料品・輸送用機器・情報通信などです。日経平均と TOPIX の週間上昇率はほぼ同じで、値がさ株だけでなく幅広い銘柄が上昇した週でした。

■ **注目材料：**米 10 月 CPI は前月比+0.4%、PPI は前年比+6.5%で、米 10 年債利回りは 5.15%、日本の長期金利も 2.855%へ上昇しました。ドル円は 13 日に一時 160 円台をつけています。翌週はエヌビディア決算（日本時間 18 日早朝）と国内 GDP・CPI が焦点です。

2．主要指標の週間騰落

指標	週末水準	前週比	騰落率	備考
日経平均	61,142.35 円	+3,707.58	+6.46%	5 日間で 4 勝 1 敗。週間高値 61,902.50 円（13 日）
TOPIX	3,941.57	+233.58	+6.30%	5 日続伸。33 業種すべて上昇
NY ダウ	52,347.55	+1,061.82	+2.07%	13 日は小幅高
S&P500	7,561.67	+184.81	+2.51%	3 指数そろって週間で上昇
ナスダック総合	25,136.27	+556.85	+2.27%	12 日・13 日は続落
SOX 指数	10,146.32	+756.07	+8.05%	13 日は 3.43%安
ドル円	159.71 円	+1.23 円	+0.78%	13 日の東京市場で一時 160 円台
ユーロ円	176.10 円	−0.46 円	−0.26%	対円でユーロは小幅安
日本 10 年債	2.855%	+0.220pt		10 日の 30 年債入札は低調
米 2 年債	4.86%	+0.34pt		12 月 FOMC での利上げ観測が報道
米 10 年債	5.15%	+0.29pt		13 日は前日比+0.04pt
WTI 原油	88.56 ドル	−2.27	−2.50%	12 日は 2.6%高
金（NY 先物）	3,886.3 ドル	−188.6	−4.63%	4,000 ドルを下回る

表を並べると、今週は「株高・金利高・円安・商品安」の組み合わせでした。前週は米中間選挙後に AI 規制強化への懸念が報じられる中で株が下落し、日本の長期金利は 6 日に 2.635%まで低下しました。今週は株価が戻る一方で日米の長期金利が上昇し、金は大きく下げています。金利が上昇する局面で株価が反発した点が、前週との大きな違いです。

3．日本株：週間レビュー

週間の値動き：急反発の後、エヌビディア報道で振れる

週明け 9 日は 1,340.73 円高と 6 日ぶりに反発し、10 日も 1,684.08 円高で 6 万円台を回復しました。両日ともソフトバンク G、アドバンテスト、東京エレクトロンなど値がさ株の上昇が目立ちました。11 日もアドバンテストが大きく上昇し、789.01 円高と 3 日続伸しました。

12 日は、米紙が「エヌビディア取締役会がファン CEO の解任を準備」と報じたことが伝わり、アドバンテスト（日経平均への寄与度約−314 円）とイビデンが急落、日経平均は 429.23 円安と 4 日ぶりに反落しました。一方、同日の TOPIX は +0.20%で、33 業種中 27 業種が上昇し、食料品・医薬品などが上がりました。13 日は一時 1,000 円超上昇した後、上げ幅を縮めて 322.99 円高で引けました。

東証プライムの売買代金は今週 8.4～9.2 兆円で推移し、前週末 6 日の 12.5 兆円を下回りました。なお、11 月 2～6 日（前週）の投資部門別売買動向では、海外投資家が現物を 714 億円売り越し（2 週連続）、個人も売り越した一方、信託銀行と事業法人は買い越しでした。

業種別騰落率（週間、東証 33 業種）

順位	上位業種	騰落率	順位	下位業種	騰落率
1 位	繊維製品	+10.81%	33 位	食料品	+0.95%
2 位	建設業	+10.41%	32 位	輸送用機器	+2.06%
3 位	銀行業	+9.18%	31 位	情報・通信業	+3.11%
4 位	化学	+8.42%	30 位	不動産業	+3.59%
5 位	卸売業	+8.22%	29 位	その他金融業	+3.70%

銀行業は長期金利が上昇する中で上位に入り、3 メガバンクは 13 日に通期見通しの上方修正と増配を発表しました。食料品は 10 日にキッコーマンが急落するなどして最下位でした。

個別銘柄・半導体関連の話題

アドバンテストは 12 日に日経平均を約 314 円押し下げた一方、13 日は約 135 円の押し上げ要因となり、エヌビディアをめぐる報道とともに大きく振れました。東京エレクトロンは週前半の上昇をけん引し、キオクシア HD（285A）は日によって上下しました。JT はロシア事業の一時管理拡大を受けて 9 日にストップ安（終値 5,269 円）となりましたが、10～12 日は反発し、12 日の終値は 5,996 円でした。

4．日々の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	ドル円	10年債
11月9日(月)	58,775.50円	+1,340.73	3,818.16	157.95円	2.665%
11月10日(火)	60,459.58円	+1,684.08	3,893.71	158.01円	2.680%
11月11日(水)	61,248.59円	+789.01	3,929.39	158.87円	2.790%
11月12日(木)	60,819.36円	−429.23	3,937.33	159.70円	2.800%
11月13日(金)	61,142.35円	+322.99	3,941.57	159.84円	2.855%

日経平均は月～水で3,813.82円上昇した後、木・金はもみ合いました。TOPIXは5日続伸し、長期金利は2.6%台から2.8%台へ上昇、ドル円も東京17時時点で約1.9円円安方向に動きました。

5．米国株・為替・金利

米国株は主要3指数がそろって週間で上昇しました。10日発表の10月CPIは前月比+0.4%、13日発表の10月PPIは前月比+0.3%、前年比+6.5%でした(米労働統計局)。報道では12月FOMCでの利上げ観測が強まったと伝えられ、FRB高官からも利上げに前向きな発言がありました。米2年債利回りは週間で0.34pt、10年債は0.29pt上昇しています。

週後半はエヌビディアが相場の中心でした。12日にファンCEOの退任が伝えられ、13日には暫定CEOにクレスCFOが就くと報じられて、SOX指数は13日に3.43%安となりました。ナスダックは12日・13日と続落した一方、ダウは13日に小幅高で引けています。日本株では値がさ半導体株を通じて日経平均が大きく振れましたが、TOPIXは12日・13日とも上昇しました。

為替はドル円がNY終値ベースで週間1.23円の円安となり、13日の東京市場では一時160円台をつけました(日銀公表の高値160.19円)。12日には三村財務官が「夏の記憶を忘れるには早すぎる」と述べて円安をけん制し、浅田日銀審議委員が利上げペースに慎重な姿勢を示したと報じられました。

6．高配当・優待銘柄トピック

配当:13日に3メガバンクが通期見通しを上方修正しました。みずほFGは年間配当予想を150円から200円へ、三菱UFJは96円から100円へ、三井住友FGは90円から100円(株式分割後の換算)へ引き上げ、3社合計で上限6,200億円の自社株買い(取得開始はいずれも11月16日)も発表しています。

株主優待:13日に発表が相次ぎました。サンドラッグは自社店舗の優待券を2,000円分から4,000円分に増額する一方、PB商品の無料引換券を廃止します(2027年3月末の100株以上から)。Faber Company(220A)はシェア型デジタルギフトの優待を新設し、総額を対象株主数で分けるため1人あたりの金額は変動します(初回は2027年3月末、100株以上、継続保有条件なし)。ムーンバットはオンラインショップ20%割引の優待を新設しました。

権利確定日:11月20日に権利が確定する銘柄は**権利付最終売買日が11月18日(水)**、11月末に権利が確定する銘柄は**11月26日(木)**、12月末権利の銘柄は12月28日(月)が権利付最終売買日です。対象銘柄と優待・配当の条件は、各社の開示で確認してください。

7．翌週の注目日程

曜日	イベント	注目点
16日(月)	7～9月期GDP速報、中国10月小売売上高、米NY連銀製造業景気指数、日銀審議委員講演、物価連動国債入札	GDPの結果と日銀審議委員の発言
17日(火)	米10月小売売上高・鉱工業生産、エヌビディア決算(日本時間18日早朝)	CEO交代後の見通しと後任選び
18日(水)	20年国債入札、10月貿易統計、米住宅着工、APEC首脳会議(～19日)	決算反応と20年債入札が重なる
19日(木)	FOMC議事要旨(日本時間19日早朝)、9月機械受注、損保大手決算、米アンソロピックのナスダック上場予定(米国時間)	大型上場がAI株の需給に与える影響
20日(金)	10月全国CPI、中国最優遇貸出金利、米ミシガン大消費者態度指数	生鮮除くCPIはロイター調査の予測中央値で前年比+2.3%

8．総括と来週の見通し

今週は、前週の急落の後に大きく反発した一週間でした。日経平均の戻りは前週下落分の約6割で、TOPIXは5日続伸、33業種すべてが上昇しました。一方で、同じ週に日米の長期金利が上昇し円安も進んでおり、金利上昇の中で株価の上昇が続くかどうかが今後の焦点です。12日のように、エヌビディアをめぐる報道ひとつで値がさ半導体株と日経平均が大きく動く場面もありました。日経平均とTOPIXの動きの差にも注意が必要です。

- **エヌビディア決算:**後任CEOの選定と今後の見通しに対し、アドバンテストや東京エレクトロンなど国内半導体株がどう反応するかが注目されます。
- **金利と為替:**米10年債利回りが5%台にとどまるか、日本の長期金利が3%に近づくか。ドル円は160円前後で、為替介入への警戒が続いています。
- **国内指標:**GDP速報とCPIの結果は、日銀の利上げ時期の見方や銀行株の動きに関わります。
- **節目:**日経平均は6万円が下値の目安、上値は200日移動平均(10日時点で約62,000円)付近が意識されます。

注:日経平均・TOPIXは各日の終値(報道ベース)。前週比・騰落率、TOPIX前週末値は筆者算出。米株の前週末値はナスダックが24,579.42(AP系列)、SOXは9,390.25(Nasdaq公表値)。ドル円・ユーロ円の週間表はトレーダーズ・ウェブ(DZH)のNY終値、日々の推移のドル円は日本銀行公表の東京市場17時時点。日本10年債は日本相互証券の終値(6～12日)で、13日は同社値未掲載のため共同通信報道の終値。米国債はフィスコ報道のNY終値。CPI・PPIは米労働統計局の公表値。本レポートは生成AIを用いて公開情報を整理・執筆しました。出典:株探、日本経済新聞、共同通信、日本相互証券、日本銀行、財経新聞、フィスコ、OANDA証券、トレーダーズ・ウェブ、みんかぶ、松井証券、世界一やさしい投資の学校、QUICK Money World、ロイター、Nasdaq。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。